

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	脳における運動制御のための情報処理機構の解明	研究代表者名	河野 憲二
-------	------------------------	--------	-------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア(×) 高い
- イ() やや高い
- ウ() やや低い
- エ() 低い

意見：
研究目的、計画に沿って研究を着実に進めている。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア() 予定以上に進展している
- イ(×) 概ね予定どおり進展している
- ウ() やや遅れている
- エ() 遅れている

意見：
新たに研究分担者を加えて更なる発展が期待される。成果の公表を積極的に進めることを期待する。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア() 研究経費
- イ() 設 備
- ウ() 組 織
- エ() そ の 他

意見：
問題点となる所は無い。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア() 期待以上の成果をあげている
- イ(×) 概ね期待された成果をあげている
- ウ() 期待された成果をあげつつある
- エ() 期待された成果はあがっていない

意見：
研究目的、理論体系が明確であり、堅実な研究が進行しており、その成果の積極的な公表を含め今後の研究の発展を期待する。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア (×) 有機的に連携が保たれている

イ () あまり有機的に連携が保たれていない

ウ () その他

意見：
問題となる所はない。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア (×) 効率的・効果的に使用されている

イ () あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ () その他

意見：
問題となる所はない。

6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

研究目的、理論体系、実験対象（眼球運動）が明確であり、生理実験と数理解析を融合して質の高い成果を挙げている。堅実な実験研究を更に進展させ、学術創成研究として新たな分野が創成されることを期待する。